

Topic 4

環境の変化

私は工場の技術者である。開発部門から現場の製造部門まで幅広く経験した。製造部門への異動は1990年代のこと。期間は5年に及び、この間、技術者を取り巻く環境が大きく変化した。開発部門に戻ると、製図板がパソコンに代わりCADや電子メールが普及した。馴染み深いIC類は製造中止、見慣れないLSIが主流になり設計の手法も変わった。変化の大きさに戸惑ったが、仕事を効率化するツールは整った。この時期は技術開発の国際的競争も激化した。技術が細分化・高度化し、技術者は多忙になった。忙しさの中味は？時流に乗って華々しく活躍する場合もあれば、仕事や研究テーマが変わったり、人間関係で悩んだり、将来が見え難かったりと、人生色々である。忙しいと書いて心が死ぬと書く。そんな文字通りの忙しさではつまらない。仕事には人生の多くの時間が費やされる。研究者とか現場の技術者とか、職種を問わず今昔を問わず、表層的な環境の変化の影響を超えた普遍的な何事かがあるはずだ。心が生きた新しい仕事人間について考えてみよう。

技術者の仕事

我々技術者にとって3P (Product, Patent, Paper) が成果である。技術者は、主に第1のP、即ちProductに注力する。新技術の開発や製造に責任を持つと技術以外にも重要な仕事が多い。時流に乗って華々しい成果が得られると、それだけで充実感がある。しかし変化が激しく先が見え難い環境の中、時流に乗ったままで良いのか？特に工場の技術者は、品質向上とコスト削減に追われ、他の2Pへの活動が後回しになりがちである。技術者の新技術開発時の努力は相当なもの。しかし激しい技術革新の中、新技術も陳腐化し、貴重な経験も総括しなければ埋没する。Patentは新たな提案を知財権で保護しつつ技術を公開する社会貢献であり、Paperは学術論文だけでない。関係者に技術を伝承するドキュメントである。多忙な中、3Pへの取組みは一步踏み込んだ努力が必要であるが、次世代に繋ぐべき仕事の総括や新たな提案として重要である。

新たな価値

開発部門においても製造部門においても、PatentやPaperは重要である。これらは、自身の仕事を振り返り、その次は・・・と新たな目標の契機になる。一つ一つの蓄積に充実感もある。社長が趣味のゴルフで高いスコアを出した時より、現場の作業で昨日より今日の仕事のできが良い時の方が質の高い喜びを感じるという。些細なことで良い。昨日より今日、昨年より今年と何かを積み上げることの実感が忙しさの中に充実感を与えてくれる。スポーツの大記録は、ささやかな個人記録から始まる。技術者のPatentやPaperも身の回りの小さな改善やちょっとした気付きから始まる。日常業務で得られた着想を粘り強く検討すると良い。わずかな努力を継続すると、ささやかな成果が大きな成果に発展する。時に新製品の発想や新たな研究テーマなどの新たな価値が生まれ、チームに貢献し仲間に喜んでもらえることもある。

チームワークについて

一人の頑張りには限界もある。光の3原色を考えてみよう。赤は一人で頑張っても赤のまま。緑が協力すれば黄色が生れる。さらに青が加わると白が生れ、それぞれが協調すれば無限の色が生れる。これは、人と人、組織と組織の関係において、協力関係が多様な価値を生み出すことを教えている。重要なことは赤と緑と青が色度図で見ると縁遠い関係にあること。近い関係は、すぐ混色するが新たに生まれる色は類似の色ばかり。新技術の創出は異質な技術者の協調が重要なのである。好き嫌いや相性の壁を超えてチームワークを大切にしよう。仲間に喜んでもらうと自分も嬉しいものだ。回り道があっても良いではないか道を間違わなければ。

最後に

定年というゴールが見え隠れする年頃は、時間が経つのが早く1年があつと言う間に過ぎ去る。だからこそ忙しさの質を高め、わずかな時間を大切に、明るく元気に仕事をしたい。充実した忙しさは、愛妻にも以心伝心。家庭生活も円満になる。新仕事人間の本質は、良き家庭人なのである。 以上